

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月12日

協議会名: 三朝町地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
三朝町	小河内線系統① 三朝町役場内～森公民館・鎌田公民館～実光 (路線不定期)	新規	A 計画通り事業は適切に実施された。	(目標)1,390人/年 (実績)834人/年 B 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のニーズに合わせたダイヤ改正等の見直しを行い、利便性の向上に努める。</li> <li>・町報やホームページ等を活用してさらなる周知を図り、利用促進につなげる。</li> </ul>
	小河内線系統② 三朝町役場内～森・鎌田～実光 (路線不定期)		A 計画通り事業は適切に実施された。	(目標)2,460人/年 (実績)1,150人/年 B 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
	小河内線系統③ 三朝町役場内～森・鎌田～実光 (路線定期)		A 計画通り事業は適切に実施された。	(目標)140人/年 (実績)50人/年 B 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
	穴鴨線系統① 三朝町役場内～三朝小学校前・若宮集会所前・各(村中)～大谷入口 (路線不定期)		A 計画通り事業は適切に実施された。	(目標)650人/年 (実績)827人/年 A 目標を達成した。高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
	穴鴨線系統② 穴鴨公会堂前～運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A 計画通り事業は適切に実施された。	(目標)2,220人/年 (実績)965人/年 B 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
	穴鴨線系統③ 下畑～穴鴨公会堂前・運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A 計画通り事業は適切に実施された。	(目標)140人/年 (実績)131人/年 B 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
	徳本線 三朝町役場内～吉水医院前～三朝温泉病院 (路線定期)		A 計画通り事業は適切に実施された。	(目標)1,000人/年 (実績)344人/年 B 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月12日

協議会名:	三朝町地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>三朝町は、鳥取県中部の山間地域に位置し、面積は233.52km<sup>2</sup>、人口は6,060人(令和2年度国勢調査)の町である。4つの谷沿いに日ノ丸バス(4条路線バス)が走り、本町民の生活圏域でもある倉吉市に繋がるよう公共交通網が広がっており、車を運転できない高齢者や学生を中心に、生活に必要不可欠な公共交通として機能している。</p> <p>三朝町を含む鳥取県中部地域の公共交通は、少子高齢化や自家用車の普及等に伴い公共交通の利用者の減少が続いており、収支悪化による行政負担の増加や路線バスの減便といった問題が発生し、公共交通を取り巻く環境は今後もますます厳しくなることが予想されている。</p> <p>これに対応すべく策定された「鳥取県中部地域公共交通利便増進実施計画」では、本町の地形上、無駄の多い路線バスの系統を見直し、より効率的な公共交通の確保を目指すもので、生活圏域である倉吉市と本町をつなぐ幹線を三朝線と上井・三朝線に絞り込み、その幹線につながる小河内線及び穴鴨線については、町運営有償運送を運行することによりフィーダー化を実現するものであるが、小河内線及び穴鴨線沿線住民の通院・買い物・通学を継続して確保するためには、新たな町運営有償運送を安定して運営することが重要である。</p> <p>このことから、生活交通確保維持改善計画により、小河内線及び穴鴨線の路線を維持し、住民生活の交通手段としてバスを存続させていくことが必要である。</p>